

健全な森林づくりをすすめ、木質材の活用を促進します

## セブン&アイ森林プロジェクトがスタート！

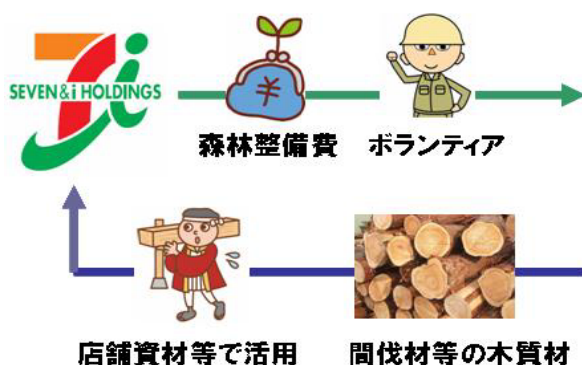
～ 2012年6月、長野県坂城町約200haの森林から活動開始 ～

株式会社セブン&アイ・ホールディングスと一般財団法人セブン-イレブン記念財団は、日本の森林を育て、木質材の利用を促進する「セブン&アイ森林プロジェクト」を開始いたします。

このプロジェクトは植林活動に限定することなく「健全な森林づくり」に必要な間伐や下草刈り、樹種転換等の森林整備活動を行います。また、この森林から得られる木質材をグループ内の店舗資材や事務備品として使用するほか、商品化することで国産木材の活用も促進してまいります。

### <プロジェクトの概要>

- ・ 森林所有者と5年間協定を結び「セブン&アイの森」として森林整備活動を行います。
- ・ 森林整備費はセブン&アイ・ホールディングスとセブン-イレブン記念財団より拠出。
- ・ 12年度は長野県坂城町から開始。13年度以降は活動場所を毎年1箇所増やす計画です。
- ・ 活動は間伐や樹種転換等、地域ニーズに合わせた森林整備活動を行います。
- ・ 「東京農業大学農山村支援センター 1」が活動地域の選定・コーディネートや森林整備の進行管理を行います。
- ・ 「小売業」という特性を生かし、セブン-イレブンやイトーヨーカドー等の店舗資材や事務備品、商品等、様々な分野で木質材の積極的な活用を推進します。
- ・ 同時にグループ社員もボランティアとして森林整備活動に参加いたします。



- 森林所有者
- 森林組合（間伐・整備事業体）
- 東京農業大学(管理)



1：都市や企業と、農山村が抱える課題解決を様々な視点からサポートし、新しいライフスタイルと社会づくりに取り組む活動を行っています。

### <日本の森林の課題>

日本の国土の約7割は森林(約2,500万ha)です。その森林の約4割が人の手で植えられ育てられた人工林(約1,000万ha)です。この人工林の約8割(約800万ha)は、森林を守る上で欠かせない間伐や下草刈りといった活動が必要な森林となっています。

しかし、この人工林は十分な森林整備活動が行われていません。その原因は木材を運び出しやすくする林道等、基盤整備の遅れと、経済的な問題で国産の間伐材が利益を生む構造になっていないことにあります。森林整備活動の経費の約70%が国等の補助金で助成されますが、それでも経済的な理由で森林整備が十分には行われてないのが現状です。

このままでは、森林の荒廃による森林機能低下や病虫害被害が広がり、CO2吸収量の低下にも悪影響がでてきています。また、土砂崩れや洪水の発生、森林動物の人里への出没等、様々な問題を引き起こしています。

## < 森林の木質材の活用方法 >

現在検討している項目です(写真はイメージです)。

- ・ 店舗資材 = 外壁材、内装材、木製ベンチ、ごみ箱等



- ・ 事務備品 = 包装材、紙コップ等の紙製品や、木質材を使った事務用品等



- ・ 商品 = ペレット(ストーブの燃料)、木製玩具や雑貨、割り箸等



## < 12 年度から実施する長野県でのプロジェクト >

- ・ 埴科郡坂城町南条、「南条生産森林組合」の所有する約 200ha。東京ドーム約 43 個分
- ・ 2012 年 ~ 2016 年度の 5 年間契約。「長野森林組合」が森林整備活動を実施します。

- ・ **当グループ社員もボランティアで協力します。第 1 回目の活動として 6/29(金)、6/30(土) に社員約 70 名が参加し、下草刈り作業を実施する予定です。**



以上